

E.coli 確認用ペーパーディスク

Pro-media IND-01

Tryptophanase 活性 (トリプトファンからインドールを形成する酵素の活性) は、*E.coli* 菌株の 95 % に見られます。インドールテストはまれに見られる β -glucuronidase 陰性の *E.coli* (約 5%) 検出用の補助テストです。

Pro-media GLU-01

生の獣肉および生鮮魚介類には本来 β -glucuronidase が含まれているため、発光酵素基質 (MUG) による大腸菌検査では、*E.coli* が存在しなくても紫外線照射で蛍光を発し偽陽性反応を示すことがあります。GLU-01 は菌の産生する β -glucuronidase 検出用の補助テストです。



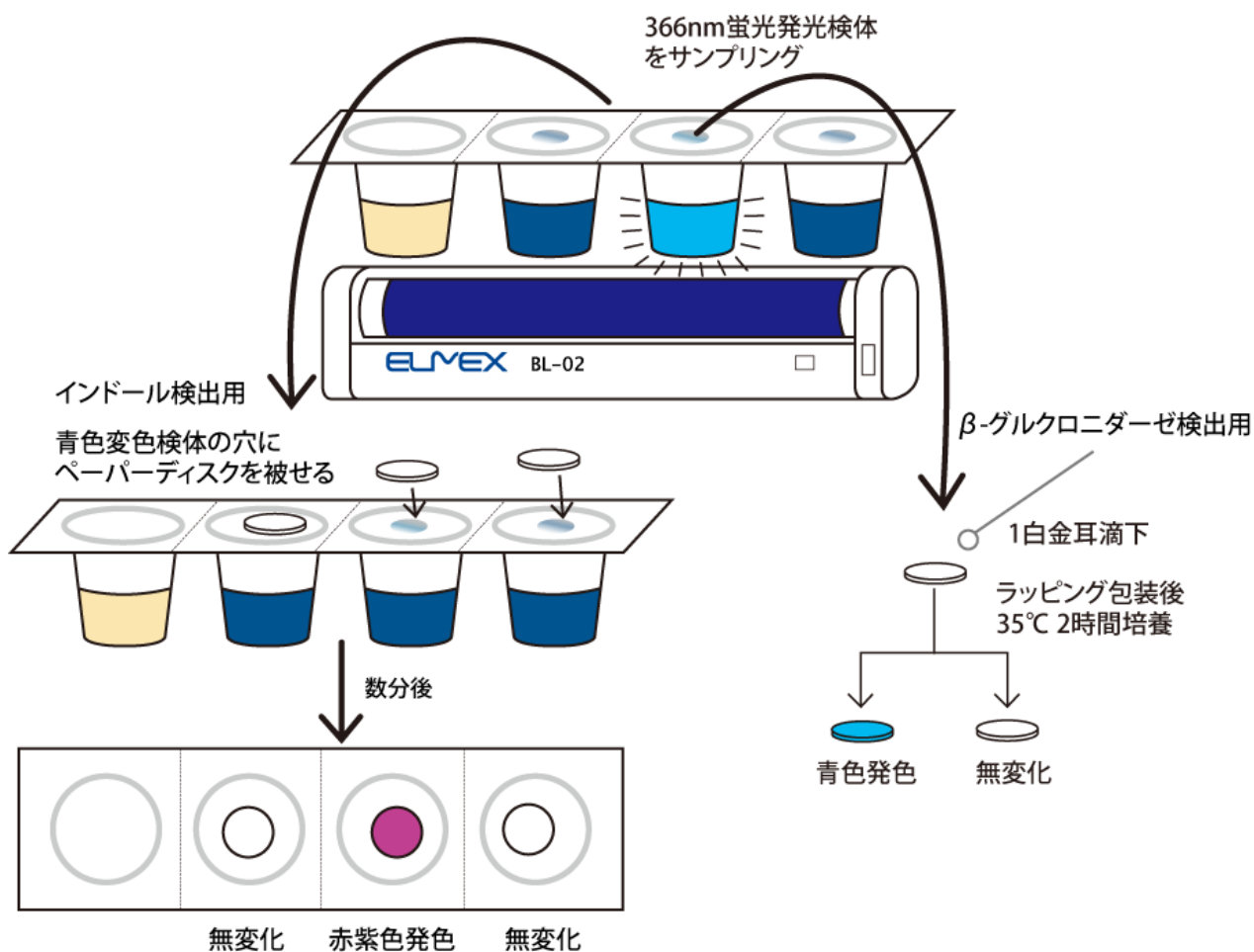
ペーパーディスク使用方法

インドール検出用 Pro•media IND-01

Pro•media MT-30、MT-31、MT-32 で24 時間培養後ウェルの開栓口に、ペーパーディスク1 枚を乗せておくとインドール陽性の時はディスクが淡桃色から紫色に変色します。

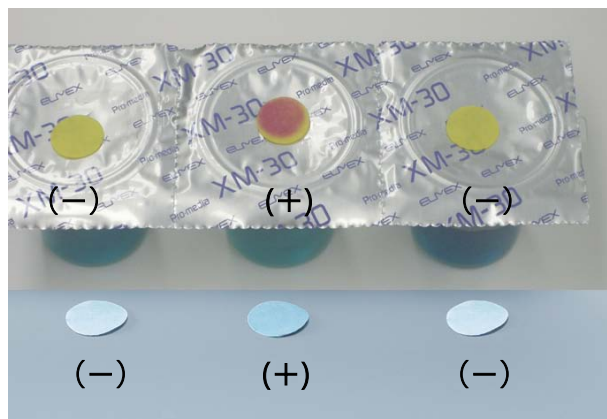
β -グルクロニダーゼ検出用 Pro•media GLU-01

ディスクを滅菌水で湿らせておき、MUG 陽性の培養液1 白金耳（ループ）を滴下します。食品包装用のラップフィルムで 包み35~37℃で2 時間保温後青く発色 すれば *E.coli* 陽性とします。



インドール検出用 Pro•media IND-01

β -グルクロニダーゼ検出用 Pro•media GLU-01



Paper Disc

商品名	ペーパーディスク Pro・media IND-01	商品名	ペーパーディスク Pro・media GLU-01
コード番号	IND-0101	コード番号	GLU-0101
用途	<i>E. coli</i> 確認用 (インドール検出用)	用途	<i>E. coli</i> 確認用 (β -グルクロニダーゼ検出用)
保存条件	冷暗所で2.5年間	保存条件	冷暗所で2.5年間
<i>E. coli</i> の95%はトリプトファンからインドールを形成します。 インドールテストは、β-glucuronidase 陰性の例外的な <i>E. coli</i> (約5%) 検出のための補助テストです		生の獣肉および生鮮魚貝類には、本来 β-グルクロニダーゼ (β-glucuronidase) が含まれているため発光酵素基質法 (MUG) で、<i>E. coli</i> が存在しなくても偽陽性反応を示すことがあります。 X-GLUC テストは、菌の産生する β-glucuronidase 検出用の補助テストです	
使用方法 1. Pro・mediaMT-30、MT-31 で24時間培養後、青く発色したウエルの検体接種孔に、ペーパーディスクを1枚載せます 2. そのまま数分おき、赤く発色すればインドール陽性すなわち <i>E. coli</i> 陽性の可能性があります (添付図参照) 反応の機構 パラジメチルアミノベンズアルデヒド (ペーパーディスクに含有) がインドール (揮発性) と、結合して赤紫色に発色します 利点 インドール試薬を直接培地に滴下しないので、陽性検体を次の検査ステップに使用できます 注意 インドール反応は、大腸菌群の一部または、<i>Proteus</i> でも反応します。		使用方法 1. まず、ディスクを滅菌水で湿らせておきます 2. Pro・mediaMT-30、MT-31 などの MUG 陽性の培養液を1白金耳ディスクに塗抹します 3. 乾燥を避けるために、ディスクを食品包装用ラップで包み、35℃で2時間保温して青く発色したものを、<i>E. coli</i> 陽性とします (添付図参照) 反応の機構 食品中の β-glucuronidase の量では、検体原液を培地に加えたときには基質と反応しますが、その培養液1滴では少量すぎて反応はみられません 一方、<i>E. coli</i> が存在すれば、培地中に充分量の β-glucuronidase が産生されており、X-GLUC の加水分解および酸化によってインディゴ (青色) が生じます 注意 MT-30 および MT-31 では、採取前によく攪拌し、青色の沈殿物を吸い込まないようにしてください	